

# 核禁会議参加語り合う

## 室戸市ビキニ被ばく遺族ら会合

【室戸】1954年に米  
国が太平洋・ビキニ環礁で  
行った水爆実験で被ばくし  
た元船員やその遺族らによ  
る懇談会が19日、室戸市内  
で開かれた。今年3月にニ  
ューヨークで開かれた核兵  
器禁止条約の締約国会議に

合わせて渡米した遺族、下  
本節子さん(74) 高知市 高知市  
が現地での体験を報告。参  
加者は、核のない世界に向  
け「声を上げ続ける」と力  
を込めた。

下本さんの父、大黒藤兵  
衛さんは室戸のマグロ漁船



下本節子さん(左端)の報告を受ける元船員ら  
＝室戸市室戸岬町の菜生市民館

員で、水爆実験により被ば  
く。がんのため、2002  
年に78歳で亡くなった。

下本さんは、各国の反核  
団体が国連広場前などで開  
いたサイドイベントにも参  
加。ビキニ事件では、日米

の軍需工場で被爆した両親  
を持つという女性の話が印  
象に残ったとし、「日本も加  
害国としての責任がある。  
核の被害は世界に及ぶこと  
を改めて感じた」と話し  
た。

懇談会には14人が参加。

大黒さんと同じ船に父親が  
乗船していたという南隆延  
さん(72) 室津 父は  
50歳を前にがんで他界し  
た。これまでどれだけ被ば  
くを訴えても、何も変わっ  
ていないが、下本さんのよ  
うに声を上げ続けることが  
大事だと感じた」と話し  
た。

(人見彩織)